

平成26年3月26日

会 員 殿

(公社) 秋田県トラック協会

融雪取水期における防災態勢強化について

今般、国土交通省より下記のとおり通知がありましたのでお知らせいたします。

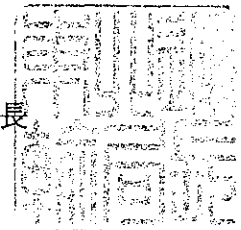
会員の皆様におかれましては、本趣旨をご理解いただき、引き続き安全運行に努められますようお願い申し上げます。

東総総第505号の2

平成26年3月25日

公益社団法人秋田県トラック協会長 殿

東北運輸局長



融雪出水期における防災態勢の強化について

標記について、国土交通事務次官より別添通達（平成26年3月11日付け国官運安第348号、国水防第557号）が発出されました。

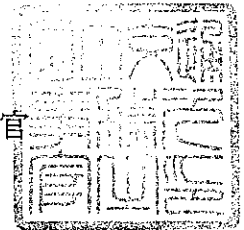
これからの時期は、気温上昇に伴う雪崩及び落雪の発生や、融雪に伴う出水による河川の氾濫及び土砂災害の発生が懸念されており、これらの発生により各交通分野においても被害が生じるおそれがあります。

つきましては、気象等に関する情報の収集・伝達体制の確認及び関係機関等との連絡体制の確認等を行っていただき、災害の防止及び緊急時対応に遺漏のないよう貴傘下会員に対し、ご指導方よろしくお願いいたします。

国官運安第348号
国水防第557号
平成26年3月11日

東北運輸局長 殿

国土交通事務次官



融雪出水期における防災態勢の強化について

貴職におかれては、融雪出水期における防災対策については日頃から尽力されていることと思われるが、今般、「融雪出水期における防災態勢の強化について」（平成26年3月11日付け中防災第8号）（以下「中央防災会議会長通知」という。）が中央防災会議会長（内閣総理大臣）から別添のとおり通知されたところである。

本格的な融雪出水期を迎えるにあたり、気温上昇に伴う雪崩及び落雪の発生や、融雪に伴う出水による河川の氾濫及び土砂災害が発生することが懸念される。今冬は、雪への対応に不慣れな地域に例年以上の積雪があったこと、融雪による地すべりによって被害が発生するおそれがあること等を踏まえ、関係機関と緊密な連携の下、特に中央防災会議会長通知及び下記の点に留意して防災態勢の一層の強化を図られたい。

なお、施策の実施に当たっては、高齢者等の要配慮者やこれら関連施設に十分配慮し対処願いたい。

併せて、貴管内における所管施設に係る許可工作物等の管理者及び関係事業者に対しても、この趣旨を徹底されるよう指導されたい。



記

1. 気象等に関する情報の収集・伝達の徹底

なだれ注意報、融雪注意報等の防災気象情報に注意を払い、現地における融雪の状況等の迅速な把握に努めるとともに、国に対し適時情報提供すること。気温上昇に伴う雪崩及び落雪の発生、融雪に伴う出水による河川の氾濫及び土砂災害の発生のおそれのある場合は、住民、地方公共団体、関係機関等に迅速に伝達し、注意喚起すること。

また、必要に応じて、インターネット（ホームページ、SNS等）等により提供された情報を活用すること。

情報の伝達に当たっては、地域の実情に応じ、防災行政無線、緊急速報メール、コミュニティFM、インターネット（ホームページ、SNS等）等の多様な情報伝達手段を活用し、住民等に確実に伝達すること。

2. 警戒避難態勢の強化

災害の発生のおそれのある地域における危険箇所、避難路、避難場所等の住民への周知徹底について市町村に協力するなど、関係機関と緊密な連携による警戒避難態勢の強化を図ること。

また、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第61条の2の規定に基づき、市町村長は、必要であると認めるときは、指定行政機関の長若しくは指定地方行政機関の長又は都道府県知事に対して、避難勧告等について助言を求めることができること及び助言を求められた都道府県知事は、その所掌に関し必要な助言をすることを地方公共団体に対し周知すること。また、助言を求められた指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長は、その所掌事務に関し、必要な助言をすること。

3. 雪崩、河川の氾濫及び土砂災害に係る危険箇所等の巡視・点検の実施の徹底
災害の発生するおそれのある危険箇所等については、既に危険防止の措置を講じた箇所も含めて、地形の特性、降積雪の状況、雪質の変化、過去の災害事例等を勘案して、重点的に巡視・点検を実施するとともに、河川、道路等所管施設や関連施設の管理の強化に努めること。

4. 再度災害の防止及び防災体制の充実

気象・防災情報の収集・伝達及び所管施設や関連施設の管理者・関連事業者等の間の情報連絡体制の整備並びに水防体制及び警戒避難体制の整備の推進についても留意し、再度災害の防止及び防災体制の充実について遺漏のないよう措置すること。

5. 災害即応態勢の確立

災害が発生した場合には、国、都道府県、市町村、関係団体及び住民が連携して対応すること。また、救援等の要請及びその実施を迅速に行うため、あらかじめ関係機関との間で連絡先の確認及び点検を行うとともに、迅速かつ確実な各組織内部での情報共有・伝達方法の徹底や意思決定経路のルート等を定め周知徹底するなど、事前に所要の手續や要件等を確認しておくこと。

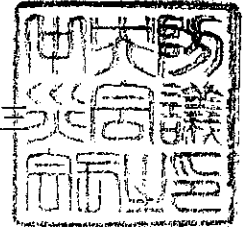
さらに、災害の発生に備え、都道府県等関係機関や住民との連携、TEC-FORCE・リエゾン・災害対策用資機材等による迅速かつ的確な支援ができるよう、あらかじめ体制を整備すること。



中央防災会議 第8号
平成26年3月11日

国土交通大臣殿

中央防災会議会長
(内閣総理大臣)
安倍 晋



融雪出水期における防災態勢の強化について

貴殿におかれては、日頃から各般の施策を通じて災害対策の推進に御尽力いただいているところである。

今冬の雪害に対する防災態勢の強化については、既に「降積雪期における防災態勢の強化等について」（平成25年12月16日付け中央防災会議会長（内閣総理大臣）通知）をもって除雪中の事故防止対策の徹底等についてお願いしたところであるが、引き続き、人命の保護を第一として、その徹底に一層努められたい。

さらに、今後、融雪出水期を迎え、気温上昇に伴う雪崩及び落雪の発生や、融雪に伴う出水による河川の氾濫及び土砂災害が発生することが懸念される。今冬は、雪への対応に不慣れな地域に例年以上の積雪があったこと、融雪による地すべりによって被害が発生するおそれがあること等を踏まえ、関係機関と緊密な連携の下、特に下記の点に留意して防災態勢の一層の強化を図られたい。

なお、貴管下関係機関に対する指導方よろしく願います。

記

1. 気象等に関する情報の収集・伝達の徹底

なだれ注意報、融雪注意報等の防災気象情報に注意を払い、現地における融雪の状況等の迅速な把握に努めるとともに、国に対し適時情報提供すること。気温上昇に伴う雪崩及び落雪の発生、融雪に伴う出水による河川の氾濫及び土砂災害の発生のおそれのある場合は、住民、地方公共団体、関係機関等に迅速に伝達し、注意喚起すること。

また、必要に応じて、インターネット（ホームページ、SNS等）等により提供された情報を活用すること。

情報の伝達に当たっては、地域の実情に応じ、防災行政無線、緊急速報メール、コミュニティFM、インターネット（ホームページ、SNS等）等の多様な情報伝達手段を活用し、住民等に確実に伝達すること。

2. 警戒避難態勢の強化

災害の発生のおそれのある地域における危険箇所、避難路、避難場所等の住民への周知徹底について市町村に協力するなど、関係機関と緊密な連携による警戒避難態勢の強化を図ること。

また、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第61条の2の規定に基づき、市町村長は、必要であると認めるときは、指定行政機関の長若しくは指定地方行政機関の長又は都道府県知事に対して、避難勧告等について助言を求められることができること及び助言を求められた都道府県知事は、その所掌に関し必要な助言をすることを地方公共団体に対し周知すること。また、助言を求められた指定行政機関の長又は指定地方行政機関の長は、その所掌事務に関し、必要な助言をすること。

3. 雪崩、河川の氾濫及び土砂災害に係る危険箇所等の巡視・点検の実施の徹底

災害の発生するおそれのある危険箇所等については、既に危険防止の措置を講じた箇所も含めて、地形の特性、降積雪の状況、雪質の変化、過去の災害事例等を勘案して、重点的に巡視・点検を実施すること。

4. 要配慮者等への配慮

平常時より、高齢者等の要配慮者宅やその関連施設の状況を把握するため、市町村、消防機関、福祉関係機関等が連携して行う巡回等の取組を支援すること。特に、融雪出水期に備え、適切に情報の収集や提供を行い、必要に応じ、消防機関、自主防災組織、近隣居住者等との連携協力により、避難誘導を行う体制等の整備・点検、避難の際の輸送手段等の確保を促すなど、警戒避難態勢の強化に努めること。

5. 災害即応態勢の確立

災害が発生した場合には、国、都道府県、市町村、関係団体及び住民が連携して対応すること。また、救援等の要請及びその実施を迅速に行うため、あらかじめ関係機関との間で連絡先の確認及び点検を行うとともに、迅速かつ確実な各組織内部での情報共有・伝達方法の徹底や意思決定経路のルート等を定め周知徹底するなど、事前に所要の手續や要件等を確認しておくこと。

以上